

9月は「認知症を知る月間」です

認知症を正しく理解し、本人や家族を地域全体で支えていきましょう

認知症とは

認知症とは、脳に何らかの原因で障害が起き、脳の機能が低下することで、もの忘れや判断力の低下などが見られ、日常生活がうまく行えなくなる脳の病気で。

「認知症の本人には自覚がない」は大きな間違い!?

認知症の症状に、最初に気づくのは本人です。もの忘れによる失敗や、今まで苦もなくやっていた家事や仕事がうまくいかなくなる等のことが徐々に多くなり、何となくおかしいと感じ始めます。とくに、認知症特有の言われても思い出せないもの忘れが重なる、多くの人は何かが起こっているという不安を感じ始めます。

認知症の人は何もわからないのではなく、誰よりも一番心配なもの、苦しいのも、悲しいのも本人です。このような心理を理解することが、安心感を与えるコミュニケーションにつながります。

かわる人のこころがまえ

認知症の問題は、介護問題だと考えるのをやめましょう。だれでも自分や家族が認知症になる可能性があります。認知症という病気のことを理解したうえで、自分だったらどう生き抜くかというのを考えなければ、認知症の人の支援は難しいものです。健康な人の心情がさまざまであると同じように認知症の人の心情もさまざまです。

「認知症の人」がいるのではなく、私の友達のAさんが認知症という病気になっただけです。友人としてすべきことは、認知症という障がいを補いながら、今までどおり友達のAさんと付き合い続けることです。さりげなく、自然に、それが一番の援助です。出典：厚生労働省ホームページ（認知症サポーター養成講座標準教材より）

認知症をテーマにした標語（認知症の予防や認知症の方への支援に関すること）を募集します

9月1日（月）～9月30日（火）の間、笠間市役所や各図書館・公民館に応募用紙を
設置します。ご応募お待ちしております。

笠間市とエーザイ株式会社で 認知症を地域で支える まちづくり連携協定を結びました

全国的に高齢化が進む中、笠間市でも高齢化率が26%を超えました。高齢化が進むにつれて、認知症への対策が大きな課題の一つになります。笠間市では、認知症を地域で支えるためにエーザイ株式会社と7月16日（水）に連携協定を結びました。笠間市は全国で6市目、茨城県では初となります。

エーザイ株式会社は、患者とご家族の満足度を第一とし、地域貢献事業の一環として、認知症を地域で支えるまちづくりを推進しています。

この協定により、地域の介護等の専門職の資質向上のための研修会をはじめ、エーザイ株式会社の幅広い情報を提供していただきながら、啓発活動や環境整備、社会資源の有効活用などを進めていきます。笠間市において認知症で悩まれている方々を、適切な医療や介護へとつなげることで、安心して暮らせる地域づくりや多職種間の連携を強化することができると考えます。



エーザイ(株) 松前謙司(まつまえけんじ) プレジデント(左)と山口市長

【問合せ】笠間市地域包括支援センター（高齢福祉課内）

TEL 0296-78-5871